



2011年6月発行  
(平成23年6月)

千葉県立匝瑳高等学校  
同窓会事務局

〒289-2144 千葉県  
匝瑳市八日市場イ-1630

TEL.0479-72-1541  
FAX.0479-73-6146

代表：鈴木勝彦

# 定例総会 6月26日(日)開催

呈茶席 9:00より 総会・講演 10:00より

## 講演「匠高生は地球人」

越川 頼知さん(高19)



今春の人事異動で退職の杉浦雅美校長に代わり、市原緑高校より鈴木尚美校長が着任された。また、事務長にも県立小見川高校より加瀬良子事務長が着任された。

# 母校に初の女性校長



入学式で太鼓を打つ加瀬事務長

〔校長略歴〕

旭農業高校、山武農業高校、  
九十九里高校、八街高校  
以上、教諭として  
県教育庁指導課指導主事、  
大多喜女子高校、大多喜  
高校、佐倉東高校  
以上、教頭として  
県総合センター次長  
市原緑高校 校長として

# 就任にあたって

## 校長 鈴木尚美



さわやかな風と新緑の美しさが心地よく感じられる季節となりました。

私は本年度、県立市原緑高校より本校に移動して参りました鈴木尚美と申します。

まず初めに同窓会の皆様には、日頃より本校教育の推進のために、多大なるご支援ご

協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

また先日、鈴木会長様から同窓会の皆様からというこ

とで、今回の東日本大震災で被災した本校の生徒に対し、

多大なる義援金を頂戴したところ

です。被災した生徒数は新

入生も含めて十数名に及びますので本当にありがとうございました。

また、千葉大学附属中（千葉大学附属中）の担任・江波戸通司先生が本校の同窓

生でいらつしやること、二つ目は初任校の旭農業高校で素

晴らしいお二人の先生（故・すために中学校や学習塾を訪

問する一方、校内的には学力

差の大きい理科一年生の数学・英語の少人数授業、ま

た学習の動機付けのために、

一年生全員参加の勉強合宿を

実施しました。更に授業改善

のために、授業参観と担当教

員との面談も行いました。

また、「文武両道」を目指し、部活動の活性化にも取り組

みましました。生徒諸君は一生懸命に部活動に取り組んで

いました。中でも弓道部は沖繩

に、念願の「進学指導重点校」の指定を目指しました。これ

には宇野裕県議会議員様をはじめ同窓会の皆様にご支援を

いただきました。一〇二年のうちに指定されるものと確信

しております。

後任の鈴木尚美先生は、先

見性と決断力にあふれた校長

です。匝高を更に発展させるものと期待しています。これ

まで以上に、ご支援・ご協力を

よろしくお願いいたします。

最後に、匝高と同窓会のますますの発展と会員皆様のご健勝をご祈

念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

# 匝高のますますの発展を願って

## 前校長 杉浦 雅美

この三月末をもって、三十三年間の教員生活を終えました。最後の二年間を歴史として、素直で優秀な生徒の教育に携わることができたことは、この上ない喜びであります。

歴代の優秀な校長先生がつけくりあげた匝高を更に発展さ

せることは、浅学非才の私は荷が重いところもあります。それでも「匝高のため、生徒のために精一杯頑張ります」と着任したときに約束したとおり、目の前の課題に誠心誠意取り組んで参りました。

生徒募集に苦労している理科・英語科の受験生を増や

した。中でも弓道部は沖繩

に、念願の「進学指導重点校」の指定を目指しました。これには宇野裕県議会議員様をはじめ同窓会の皆様にご支援をいただきました。一〇二年のうちに指定されるものと確信

しております。

後任の鈴木尚美先生は、先見性と決断力にあふれた校長です。匝高を更に発展させるものと期待しています。これ

まで以上に、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、匝高と同窓会のますますの発展と会員皆様のご健勝をご祈

念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

させていただきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

# 同期・支部・同好の集い

## 匝三会懇親会報告

匝三会代表 小泉 泰清  
私ども、匝三会（併設中一回卒、高校三回生の同期会）



は、昨年菊薫る十一月十二日梅田家で、久しぶりに懇親会を催した。天候は晴れで凌ぎ易く午前十一時より始まるところが、早くから集まる者多く会場は賑わっていた。参加者三十八名で（前回四十五名）やはり寄る年波のせいか減少しているのが寂しい。

今回は喜寿を記念しての会であるが、本来昨年がそれに当たるのであったが、代表である筆者の怠慢で進めることができず、今年になったので、汗顔のいたりです。  
十一時すぎ一同で記念写真を撮り、塚本和巳君の司会で始まり、私の挨拶で、先ず喜寿を祝い、今日までこられた健康に感謝し、亡くなら

れた七十五名のご冥福をお祈りした。祝杯を久古幸夫君の手で揚げられ、欠席者六十七名のコメントを私が読み上げた。

又、通信文は皆に回覧した。この中には本人の病氣、足腰の疾病、あるいは家族の病氣介護のためなど、高齢ゆえの出席不可能の者が多く残念であった。

やがて会は盛り上がり、学校時代のグループ毎になり、談論風発、遠い日の顔に帰つて、年を忘れさせる程の元氣さだ。短時間では近況を語るのみの方もあったが、時のたつのも早く、二時間ほどで萩原庄一君のウクレレ伴奏で「此処東海の」旧校歌を全員で高唱して、名残りを惜しみつつ次回の傘寿を期して、二年後の再会を約した。

ただ、卒業時担任の恩師の先生方が鬼籍に入られ、恐らくご健在ならば、みな百歳を越えられたであろうと思うと何ともわびしい気がしてならない。旧友の皆さん共ども十分に健康に留意して、この会をずっと続けて行きたいものと念願しております。



塚本先生の米寿を祝う同窓会 平成22年4月12日

42号掲載の高6F組同窓会「恩師の米寿を祝う同窓会」で、ご出席者が揃わない写真を掲載してしまいました。改めて記念写真を掲載いたします。

## 京葉支部総会開催

支部事務局長

石井 和美（高16）

五月晴れの昨年5月22日（土）京葉支部総会が千葉京成ホテルミラマーレ6階に於いて、午後1時より母校の杉

浦雅美校長先生、行木敦頭先生、川口明和同窓会長等多くの御来賓と、80名を超える会員の皆様に参加して開催されました。疋田副会長（高14）の開会の辞に続き、土岐四郎会長より御参加頂いている来賓、先輩、恩師の御紹介と挨拶のあと、佐藤正巳特別顧問



を議長に議事の審議に入り、21年度事業報告、収支報告、監査報告、22年度事業計画、22年度役員承認を頂き、新任の熱田副会長(高15)の閉会の辞で終了いたしました。27日(月)恒例のゴルフコンペを昨年同様、久能カントリークラブ(富里市)で開催しました。また11月には南房総をめぐる日帰りバスツアーを開催いたしました。是非同窓の皆様にお声をかけていただき、多くの御参加をお願いしております。

引き続き懇親会

に入り、例年の講演会と異なり、土岐会長より本日のゲスト公演者の長沢純、ジェリー藤尾両氏の紹介ののち、『甦る青春時代』のオンステージが開催されました。(ダイアナ)(テネシーワルツ)(遠くへ行きたい)等昭和60年代から80年代のヒット曲の熱唱と軽快なトークの一時間となりました。この中で高校11回生の古希、高校21回生の還暦の全員に両氏のサイン色紙と6月に開催されるジェリー藤尾氏の喜寿の誕生会への招待券がプレゼントされ、ステージの終了時には花束の贈呈と記念写真の撮影をいたしました。

懇談ののち太田匠瑛市長のお姉様、宇野裕県会議員(高28)等先輩諸氏の御挨拶と沢田音楽部OG(高11)の先導で校歌斉唱、恩師品村先生の音頭で万歳を三唱し、鈴木貞子副会長(高11)の閉会の辞でお開きとなり、そののち二次会、三次会と大変旧交を温める有意義な一日となりました。

尚、今年度の役員は以下の通りです。

**京葉支部役員**

- 会長 土岐 四郎(高11)
- 副会長 鈴木 貞子(高11)
- 石橋 進(高12)
- 青柳 泰亘(高13)
- 正田 躬矩(高14)
- 熱田 熙人(高15)
- 幹事長 椎名 三郎(高16)
- 監事 鈴木 正義(高7)
- 平山友三郎(高11)
- 会計 豊村 至子(高16)
- 事務局長 石井 和美(高16)

**京葉支部事務局長**

石井 和美(高16回)

秋晴れの九月二十七日と言いたいところですが、あいにくの雨天でしたが、当日の九能カントリークラブは早朝より会員各位のさわやかな挨拶の中、総勢百五名のご参加を頂き開催いたしました。匠瑛中学22回生の飯島重雄大先輩を先頭に男性95名、女性10名がダブルペリアでの競技方式で熱戦を繰り広げた結果、総合優勝は高校18回生の小川早苗さんがネット71ポイント8で並みいる男性をなぎ倒し、栄冠を獲得しました。尚ベス

グロはアウト36、イン40、グロス76で高校21回生の加瀬正敏さんでした。

午後4時30分からは表彰式と懇親会を開催、土岐会長の挨拶、ご来賓のご紹介に続き、大先輩、飯島様(中22回)、江畑様(高2回)、押尾様(高2回)の音頭で乾杯をいたし、成績発表に移りました。熱田熙人副会長(高15回)からの成績発表に会場はその都度どよめき、総合順位20位迄、ゾロ目賞、飛び賞、当日賞、ニアピン、ドラゴン、BB、BM、頑張り賞等、会員各位の多くのご協賛での賞品は、今回全員にもれなくお渡し出来ました。中でも女性陣には全員生花の鉢植えが土岐会長から手渡され、大会回数の7位や、会長賞の46位は今年も優勝者に匹敵する素敵な商品でした。その後優勝者の小川早苗さんにご挨拶を頂き、主催者監事である石橋進副会長(高12回)の閉会の辞でお開きと致しました。

当日は大変な悪天候にもかかわらず、ご参加いただいた会員各位に改めてこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

# 平成22年度 進路状況

## 学は及ばざるがごとく！

進路指導主事 宮原 実

### 1 はじめに

先日進路指導室の資料を整理しているときに、昔の『進路のしおり』が見つかりました。このしおりは今年で第45号になりますから、およそ半世紀にわたって創られ続け、匠塚高校の貴重な進路指導記録になっていきます。その中に、当時生徒だった同窓生の方の合格体験記が記載されています。それを読ませていただくと、あらためて受験勉強の在り方を再認識させられます。「具体的勉強法は、Trial & Errorで、自分で見つけなければ真に身に付く方法はない」「受験科目にない授業でも真剣に聞き、集中力と物事にたいするけじめを身に付けるならば必ず栄冠を勝ち取ることが出来る」など。かつて受験を突破され大きく羽ばたかれた同窓生の、珠玉の助言を金科玉条に、あらためて現

役生の進路指導に当たりたく存じます。

### 2 23年度入試の傾向

昨年度の大学入試センター試験は、1月15日・16日に全国706会場で、約53万人の受験生が参加して実施されました。本校生の受験会場となったのは東金市にある城西国際大学で、当日求名駅で3学年の先生方とともに生徒273人の出陣を見送りました。

今回のセンター試験結果は、昨年に比べて平均点が上昇し、特に数学ⅠA(△17・3点)や物理Ⅰ(△10・2点)で顕著でした。総合平均点では文系・理系ともにアップし、7科目型(900点満点)の平均点は、文系型が562点(△17点)、理系型が568点(△26点)といずれも上昇しています。最近の不安定な経済情勢や学生の就職難といっ

た社会不安の影響で、国公立大学の人気は安定しており、志願者数も増加しています。また、一昨年から「地元志向」「安全志向」といった傾向は続き、学部系統の人気は「文低理高」が鮮明で、就職難を背景として教員養成や医療などの資格系学部の人気が高いのも特色です。

### 3 本校生の進路動向

今年三月の卒業生の進路状況は、次のようになります。  
 ◇国公立大学合格者は、現役29人、過年度9人の合計38人でした。  
 ◇現役生の私立大学合格者の延べ数は、430人で、短期大学合格者数は7人でした。

◇専門学校合格者数は31人でした。  
 ◇就職希望者は、公務員合格者の延べ数が17人で、民間企業が3人です。

センター試験、個別試験と国公立大学を受験した生徒数は述べ95人で、合格者は29人です。合格率は30・5%となります。昨年度が31・3%

(一つつく)

# 戦後最高記録

今では、戦前・戦後と言っても、あまりピンとこないかも知れない。

陸上競技をはじめ、すべての競技は、昭和十八年を最後に行われなくなった。

昭和二十一年、戦火にあわなかつた京都の西京極競技場を中心に、第一回国民体育大会が開催された。当時は宿泊する旅館・ホテルなども少なく、選手数も絞られ、私などは大宮の競輪場内の競技場で関東大会があり、その上位四名しか国体には出場できなかった。もちろん占領下にあったので、大きな大会を開催するに当たっては、米軍の許可を必要とした。

そのような中で、昭和二十五年、千葉市で全日本インターカレッジが行われ、天皇、皇后(昭和天皇)両陛下の行幸啓を仰ぎ、市営競輪場の中の競技場で開催された。

私はまだ現役の手であったが、公認審判員の二種の資格を持っていたので、計時員として参加した。その時の総務

が、棒高跳びの銀メダリスト西田修平さんと、実にテキパキと運営の要として毎日の朝夕の連絡会をとりしきっておられました。

いわゆる戦前から見ると記録的にはガタ落ちで、比べようもなかつた。このインターで戦後最高記録と言う言葉が生まれたように思う。例えば待望の100mに10秒台の記録、あるいは400mの49秒台などがそれである。私なども県下大会でしばしば新聞に戦後最高記録と記された記憶がある。それは我々にとつては、一種の励みともなっていた。

そして、徐々に記録も更新され、今では戦前の記録が残っているものは一つもなくなくなった。それでもなお、世界記録などに比べると、日本はまだ相当に立ち遅れている。今世界に伍して戦えるのは、男女のマラソンくらいである。

そんな中でハンマー投げの室伏君はひとり偉才をはなっている。室伏君は成田高校卒業生であることも忘れてはならない。

品村 晃祥(中14回)

う謙虚な気持ちと、若者らし

入學してきました。また受験

を控えた3年生も進路実現の

ために毎日学習に勤しんでお

ります。前6世紀に中国で活

躍した孔子の「学は、及ばざ

るが如くせよ」という名言の

ように、生徒には自分はまだ

十分ではない、頑張ろうとい

4 24年度入試に向けて

今年も母校には、324人

の新生が青雲の志をもって

ます。また短大合格は7人、

専門学校には31人、就職は公

務員が17人、民間が3人でし

た。

また私立大学では、慶応大、

早稲田大、上智大の難関校に

は7人(前年比4減)、M A

R C H (明治、青山、立教

中央、法政)には62人(前年

比6減)、日東駒専には79人

(前年比10増)が合格してい

ので若干下がりました

が、大阪大(医)、一橋大(経

済)などの最難関大に合格し

た生徒がいます。これは生徒

のがんばりと、3学年の先生

方を中心に、熱心に教科や小

論文などの個別指導に取り組

んでいただいた結果です。

国公立大学

大 学 名	今 年 度		昨 年 度	
	現	浪 計	現	浪 計
北見工大	1	1		
北見工大		1	1	
弘前大			1	1
東北大				1
山形大			1	1
福島大	1	1	1	1
茨城大	1	2	3	7
筑波大	1	1	4	4
埼玉大			1	1
千葉大	9	1	10	14
京海大	1	1		
電通大	2	2	1	1
東外大				2
東京芸大	1	1	1	1
東京芸大				1
一橋大	1	1		
新潟大	1	1		
山梨大			1	1
信州大		1	1	
名古屋大			1	1
京大	1	1	1	1
大阪大	1	1		
和歌山大	1	1		
島根大			1	1
広島大	1	1		
宮崎大		1	1	
琉球大		1	1	1
国際教養大			1	1
茨城県立医療大	1	1	1	1
前橋工大			1	1
高経大	1	1	2	2
千葉保健医療大	2	2	4	4
首都大	1	1	1	1
横浜市立大	1	1	1	1
都留文科大	1	1	2	2
国立合計	29	9	38	46

私立大学

大 学 名	今 年 度		昨 年 度	
	現	浪 計	現	浪 計
仙台大			1	1
つくば国際大	1	1		
流通経大	1	1		
国際医療福祉大	3	3		
自治医大			1	1
獨協医大	1	1		
白鷗大			1	1
東京福祉大			1	1
埼玉医大			1	1
城西大	1	1	2	2
駿河台大	1	1	2	2
獨協大	6	1	7	1
文教大	8	8	6	6
文京学院大			1	1
明海大	7	1	8	7
目白大		1	1	1
十文字学園大	1	1		
江戸川大	2	2		
神田外語大	11	11	12	12
敬愛大	3	3	1	1
国際武道大	2	2	1	1
淑徳大	4	4	10	10
城西国際大	1	1	2	2
聖徳大	7	7	7	7
千葉経大	1	1		
千葉工大	11	11	20	20
千葉商大	6	6	1	1

大 学 名	今 年 度		昨 年 度	
	現	浪 計	現	浪 計
中央学院大	1	1	4	4
帝京平成大	2	2	9	12
東京歯大	1	1		
東京情報大	2	2	5	5
東洋学園大	1	1		
麗澤大	4	4	1	1
和洋女子大	5	5	6	6
千葉科学大			5	5
了徳寺大	1	1	1	1
植草学園大	5	5	1	1
青山学院大	4	2	6	5
青山学院大	1	1	5	2
亜細亜大	3	3	3	3
桜美林大	3	1	4	3
大妻女子大	7	7	2	2
学習院大	5	5	2	2
学習院大	1	1	2	2
北里大	4	4	5	1
共立女子大	1	1	2	2
杏林大	1	1	5	5
慶応大	2	4	6	1
工学院大	1	1	4	4
国学院大	1	1	8	8
国士舘大	8	8	12	13
国士舘大	1	1	12	13
駒澤大	10	5	15	7
駒沢女大	1	1		
実践女子大	4	4	3	3
芝浦工大	4	2	6	4
順天堂大	3	3		
上智大	1	1	4	5
昭和女大			2	2
昭和女大				1
昭和薬大	2	2	1	1
女子栄養大	1	1	3	3
女子美大			1	1
白百合女子大			2	2
杉野服飾大	1	1		
成蹊大	3	2	5	1
成城大	3	1	4	1
聖心女子大			1	1
専修大	3	3	10	11
専修大	1	1	10	11
専修大	3	2	5	10
大正大	2	2	4	4
大東文化大	8	1	9	11
拓殖大	1	1	4	4
玉川大	5	5	3	3
多摩美大			1	3
中央大	16	6	22	13
中央大		1	1	13
津田塾大	1	1	8	8
帝京大	9	1	10	18
東海大	9	2	11	17
東京医大				1
東京音大	1	1		
東京家政大	1	1	2	1
東京家政学院大	2	2		
東京経大			1	1
東京工大	3	3		
東京女子大	1	1	3	3
東京電機大	3	1	4	3
東京農大	12	12	3	3
東京薬大	2	2	1	1
東京理大	4	8	12	4
東京理大		1	1	4
東邦大	12	1	13	12
東洋大	33	4	37	17

平成23年3月31日現在

大 学 名	今 年 度		昨 年 度	
	現	浪 計	現	浪 計
二松学舎大			1	1
日本本大	30	5	35	8
日本社会事業大	1	1	2	43
日本獣医生命大	2	2	1	1
日本女子大	3	3	12	12
日本女子体育大			1	1
日本体育大	1	1		
法政大	19	4	23	9
星薬大	3	3	2	2
武蔵大	1	1	2	2
東京都大	3	3	3	3
武蔵野大	2	2	1	1
武蔵野大	1	1		
明治大	17	5	22	13
明治学院大	10	3	13	5
明星大	5	5	5	5
立教大	6	3	9	8
立正大	4	2	6	3
立光大			1	1
早稲田大	4	4	8	10
学習院女子大			1	1
聖母大			1	1
聖栄大	2	2		
京未来大			1	1
麻布大	2	2		
神奈川大	4	4	6	1
神奈川大		1	1	6
神奈川大	2	2	6	1
神奈川工大			1	1
鎌倉女子大	1	1	2	1
関東学院大	5	5		
相模女子大	2	2		
鶴見大	1	1		
京芸大	1	1		
東洋英和女大	1	1		
フェリス女大			1	1
金沢医大			1	1
帝京科学大	2	2		
常葉学園大	1	1		
中京大		1	1	
至学館大	1	1		
京都産業大			1	1
同志社大		2	2	
同志社女大			2	2
立命館大	1	1	2	2
関西学院大			1	1
私立大合計	430	91	521	549
短大合計	7	1	8	20
留学合計	1	1		
専門学校合計	31	1	32	24

就 職

	公務員合計	民間合計
公務員合計	17	17
民間合計	2	2
進学準備合計	58	58

	現	浪	計
公務員合計	17	18	18
民間合計	2	2	2
進学準備合計	58	46	46



い向上心をもって進路実現に

邁進してもらいたいと思いま

す。

前述の進路のしおりにも、

ある同窓生が次のように寄稿

なさっていました。「部活動

をやっている人は、勉強との

両立を考えて悩むようである

が、勉強と部活動は両立でき

るものであると信じている。

両立できないというのは甘え

のようである。」

今年の現役受験生326人

に、大先輩からの名言として、

文武両道の精神をもう一度話

したいと思いません。今後とも

伝統ある母校のために、よろ

しくご指導、ご協力の程お願

い申し上げます。

# 匝陵バスケットボール会長 鈴木良一先生の逝去を悼んで

平成22年5月に難病を患いご家族の手厚い看護や、同僚、OB、教え子の祈りも空しく本年1月25日遂に帰らぬ人となられた。先生の残された多大な業績を称え在りし日のお姿を偲びたい。終戦直後、食生活もままならず、ボールやシューズにも不自由し、外のコートでの練習、控室(リングの着いた全校生徒の集会所)他に講堂もあった。どちらにしても、ファンダメンタル、とくに走ることが中心であった。部員の先頭に立ち率先垂範で汗を流されていた。そんなある時の合宿で貴重な文献を目にした。1926年早稲田大学出身の李宋伯著「指導籃球の理論と実際」という分厚い本であった。(籃球とは今のバスケットのこと)今でこそ沢山の出版物があるが、当時としては珠玉のバイブル的存在であり恐らく先生が手にいれそれを参考に

して我々に教えてくれたのかも知れない。その本は「知

育と体育をして教育となす」(注：原本をパソコン調査による)。と言う基本理念が根底に一貫して流れている。

先生の指導の原点は小手先の技術や勝敗に囚われず飽く迄も基礎技術をもとにバスケットを追及していたのはこの本の影響があるのではないかと思われる。放課後、いつの間にか体育館の隅に現れ練習を黙って見ている。これが物凄く怖かった。大声や体罰は無かった。新しいことの練習では先生が納得するまでリピート、これがまた辛くきつかった。その反面練習が終わると人が変わり人間臭さ丸出しの先輩となった。合宿では自ら料理をつくり特にもつ煮とカレー(ダシは豚の骨)は人気があった。

照明のない体育館に裸電球一個を無断で着けてくれたり、千葉医大(私の兄中14字井清バスケット部)、法政大学(故中17嶋田三郎氏)、早稲田大学(高2松崎一夫氏)

等のお骨折りで合宿をし直接指導を受けたりした。諸先輩の厚い思いがあればこそ感謝の念が一杯である。そして昭和24年1月の安房大会で遂に県初優勝を遂げた。

鍋、釜担いで銚子の寺の長屋を借り合宿、銚子商業の体育館での練習、OB主催の匝陵杯争奪バスケットボール大会(高、中、ミニ)の立ち上げ、光中時代順天堂大学合宿の招聘、等総て不言実行の先生の業績である。尺貫法では量れぬ人間的スケールの大きさを実感させられました。日吉、吉田、光最後の勤務校野栄各中学校でもバスケットに限らず、なりふり構わず私財と時間を投げうって幅広い活動をなされて同僚は勿論生徒、保護者から厚い信頼を受け教育活動にご尽力なされたと承っております。

半世紀以上に及ぶ先生とのご厚誼のなかでバスケットだけでなく人間とはなにかを教えて頂きました。OB各位は誰しも「俺の良一先生」と思っている方が多いのではないか。「アメニモマケズ…」の詩を地でゆくような生き様

は先生の為にあるのでは。アルコールはあまり好きではなかったようだがOB会に大勢参集した時の先生の笑顔は格別であった。通夜、告別式にご参集くださった大勢の方々、そして同期の井橋先生のご弔辞は生前の先生の奥行き

の広いお人柄を偲ばせるのに十分であった。あとは立派な社会人となられた誠実なご子息健夫君(OB高36)とご遺族に任せ、17年前に亡くなられた奥様と安らかに眠りください。ご冥福をお祈りします。岩崎 照(旧姓宇井)(高2)



「市原裕志追悼文集」配布  
去る2月19日、匝瑳市内の「つたや」で偲ぶ会が催され、有志の手になる文集(写真)が配られた。  
編集責任者 中川 繁明(高24)

## お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方です。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(平成23年3月31日受付分まで)

### 《恩師逝く》

- 大平 肇先生(理科) 市東 裕志先生(社会)
- 平成22年4月17日逝去 平成22年11月4日逝去
- 匝瑳市上谷中二二三七ー 多古町多古二六一六
- 一〇 昭和40年〜59年在職 昭和63年〜平成11年在職

《会員訃報》

勝股 通剛さん(中7)

平成23年1月20日逝去

練馬区春日町二―三―四

大木 幸助さん(中10)

平成23年3月24日逝去

旭市口一六五八

椎名 直礼さん(中12)

平成22年6月15日逝去

横浜市旭区若葉台三―五―

一一〇五

椎名 一成さん(中13)

平成22年1月8日逝去

横芝光町宮川六〇五―五

及川 昭二さん(中16)

平成22年8月逝去

匝瑳市川辺三〇一〇

高埜登喜男さん(中16)

平成23年1月7日逝去

旭市三川八三四六

大谷 信雄さん(中16)

平成22年8月

府中市新町一―三―八

越川 協さん(中16)

平成22年7月4日逝去

横芝光町谷中一九五八

石井 大三さん(中16)

平成22年11月12日逝去

多古町水戸一〇四〇

外口 義和さん(中16)

平成22年10月5日逝去

若葉区千城台北四―五―一八

鈴木 廣夫さん(中17)

平成22年7月逝去

港区芝三―二六―九

須合 覺さん(中17)

平成23年1月6日逝去

匝瑳市大浦三六七

鶴之澤 勲さん(中17)

平成23年2月23日逝去

匝瑳市八日市場イ四九七―五

澤田 勤也さん(中17)

平成23年1月19日逝去

稲毛区稲毛一―一三―五

新行内昭二さん(中17)

平成22年6月逝去

旭市口一八六二

島田 俊雄さん(中19・20)

平成23年1月13日逝去

匝瑳市野手六〇三八

鈴木 良一さん(中19・20)

匝瑳市イ―二五一六

平成23年1月25日

椎名 静雄さん(中22)

平成23年1月13日逝去

匝瑳市八日市場イ―

二七九五―二

秋葉 武さん(高2)

平成23年2月1日逝去

川崎市安行慈林四六

平山 讓さん(高2)

平成23年3月8日逝去

多古町多古三二七―一―二

作佐部榮一さん(高4)

平成23年1月31日逝去

旭市飯岡二二三四

伊藤 明さん(高4)

平成23年1月19日逝去

匝瑳市長谷三三九九―七

井上秀次郎さん(高4)

平成22年7月12日逝去

横芝光町横芝七六一―一

越川 誠さん(高4)

平成21年9月25日逝去

匝瑳市八日市場ホ―三三三七

土屋 雄道さん(高4)

平成20年12月逝去

山武市松尾町本水深五〇二

佐久間義巳さん(高5)

平成22年5月逝去

匝瑳市野手五七二六

岩井 精一さん(高7)

平成22年8月15日逝去

四街道市さちが丘一―七―二

大川勝市郎さん(高7)

平成22年6月13日逝去

匝瑳市野手一六三四

伊藤 重雄さん(高9)

平成21年9月逝去

横芝光町横芝九六七―七

大地 孝さん(高9)

平成21年9月逝去

鎌ヶ谷市右京塚一四―五八

田村 知親さん(高9)

平成17年4月19日逝去

名塚 啓子さん(高9)

平成22年6月4日逝去

船橋市北本町二―二六―二

松本 勲男さん(高9)

平成23年3月12日逝去

旭市横根一二七七―六

武藤 裕さん(高11)

平成22年8月18日逝去

市原市青葉台七―二九―二

山本 広さん(高11)

平成23年1月19日逝去

千葉市中央区葛城三―二―二

石橋 康子さん(高13)

平成22年4月27日逝去

匝瑳市飯倉二七一―三〇

伊藤 光治さん(高13)

平成22年6月10日逝去

千葉市小仲台一―四―一

アイブレイス稲毛二―八〇―六

高山 一彦さん(高15)

平成22年5月5日逝去

守谷市本町八六七―一三

川口 明和さん(高17)

平成23年2月23日逝去

匝瑳市大寺一〇三一―三

菅谷 秀樹さん(高19)

平成20年3月16日逝去

松戸市八ヶ崎七―一四―五

大島 絹代さん(高19)

平成21年4月8日逝去

品川区八潮五―四―一六―四〇九

小林 浩一さん(定夜37)

平成22年11月10日逝去

横芝光町宮川八四〇八

鈴木 淳子さん(高47)

平成22年12月31日逝去

横芝光町小川台二三〇―三

川口明和君を悼む

川口明和君、君の突然の訃報を聞いてほんとうにびつくりしてしまいました。小柄ながらもバイタリティー溢れ、いつも精力的に動き回っていた君が急に逝ってしまうとは、誰も信じられなかったと思います。

二〇〇九年度の同窓会長を務めた君は、特に現役生の人材育成に努力すべきだとし、少しでも多くの資金等援助できる様、財源確保に尽力していただきました。そしてそれを実践すべく各支部の会合に顔を出しては、協力を呼びかけていました。今後も匝瑳高校同窓会は、OBの為として現役生の為に存在し続ける事と思えます。

川口明和君安らかに…。

栗田 壯一(高17)

# 母校 今春の人事異動

**【退職・全日制】**  
 校長 杉浦 雅美  
 地公 井上 泰光(高21)  
 県立銚子商高校(定)へ再任用  
 理科 濱中 修  
 県立銚子商高校へ再任用  
 国語 藤井 久弥  
 事務主幹 齊田 完  
 事務主事 鎌形 啓子  
**【転任・全日制】**  
 教頭 東城 孝  
 八街市立八街中教頭へ  
 国語 鶴澤 忍(高31)  
 市立銚子高校へ  
 数学 加瀬 光一(高29)  
 県立銚子商高校(定)へ  
 理科 澁谷 義範(高37)  
 市立銚子高校へ  
 英語 小平 邦彦  
 県立佐倉高校へ  
 英語 高木 文雄(高35)  
 県立成田国際高校へ  
 臨任英語 宮木 真貴  
 県立多古高校非常勤へ  
 事務副主査 高野 善美  
 県立松尾高校へ  
**【転任・定時制】**  
 地公 中村 敬一  
 県立柏井高校へ  
 理科 中里 昭二(高32)  
 県立東総工業高校へ

**【着任】**  
 校長 鈴木 尚美  
 県立市原緑高校より  
**【着任・全日制】**  
 教頭 加瀬 健司(高30)  
 教育振興部体育課より  
 国語 片岡 和子  
 県立八街高校より  
 地公 大木 宏之(高27)  
 県立成東高校より  
 数学 長 新人  
 匝瑳市立八日市場二中より  
 理科 梅田 雄三  
 銚子市立第六中より  
 理科 鈴木 英夫  
 県立千葉北高校より  
 英語 齊藤 清  
 県立小見川高校より  
 英語 玉井 江華  
 初任(大網中臨任)  
 国語 朝生 倫代  
 県立多古高校より  
 臨任英語 三浦 拓也  
 法政二高非常勤  
 非常勤国語 小柳 美枝  
 県立泉高校臨任  
 非常勤英語 小熊 祥子  
 県立多古高校臨任  
 事務長 加瀬 良子  
 県立小見川高校より  
 事務主任 中嶋 真理  
 海匠健康福祉センター  
 教育総務課より  
 事務主査 久保 敬子  
 県立佐倉南高校より

**【着任・定時制】**  
 地公 行木 光男  
 県立九十九里高校より  
 理科 三橋 栄夫  
 県立長生高校(定)より

**三四三名が卒業**  
**同窓会入学式を挙行**  
 今年の卒業証書授与式は、三月五日に挙行された。全日制は第六十三回、定時制は第五十七回の卒業にあたる。卒業生の内訳は左の通り。  
 全日制普通科 二四四名  
 理数科 四〇名  
 英語科 三八名  
 定時制 二一名  
 合計 三四三名  
 また同窓会入学式は、全日制は前日の卒業式予行後、定時制は卒業式後に行われ、新幹事九名が委嘱された。

A 加藤 渚  
 B 宮本 和也  
 C 所 勇希  
 D 青柳 康平  
 E 磯部 亮太  
 F 佐藤 摩奈  
 G 向後 大希  
 H 大谷 隆介  
 P 大橋 孝美

**三五一名が入学**  
 本年の入学式は四月七日に挙行され、次のとおり三五一名が入学した。  
 全日制普通科 二四四名  
 理数科 四〇名  
 英語科 四〇名  
 合計 三二四名  
 定時制 二七名  
 合計 三五一名

**陸燕さん帰国**  
 昭和十八年に匝瑳中学に旧満州国より留学していた朱樺燐さんのお孫さんの陸燕さんが東京国際大学大学院を修了しこの三月に帰国しました。陸燕さんは創立八十周年の時来校され、お爺さんの名代として記念式典に出席されました。平成十四年に来日し、約九年留学していました。昨年九月に同じ中国北京からの留学生黄偉さんと結婚したので、現在は北京にお住まいで、就職活動をしているとのことです。  
 メールアドレス  
 shashaly0727@yahoo.co.jp  
 米本 記

**「匝美会」より**  
 第27回匝美会通常総会が2月13日梅田家に於いて開催。会員58名中、新会員の2名の入会もあり、東京はもとより栃木県から毎年出席してくださる方、今回は愛知県より出席頂いた人等も含め32名の顔がそろいました。多面でご活躍の人が多く、それぞれの専門分野の情報交換、意見交換が行なわれ有意義な充実した楽しい総会となりました。  
 今年度の事業として第13回匝美会展が計画されました。地元の八日市場での開催となります。用務多忙の折と存じますが、ぜひご高覧頂きますようご案内申し上げます。

**第十三回匝美会展**  
 絵画 彫刻 工芸 デザイン  
 会期 7月5日～7月10日  
 (初日は午後1時より)  
 時間 午前10時～午後5時  
 (最終日は午後4時まで)  
 会場 匝瑳市公民館  
 市民ギャラリー  
 綿貫ひろ子(高8)

おめでとうございます

平成22年秋の叙勲

☆旭日双光章

高木 良章さん (高2)

保健衛生功労

☆瑞宝小授章

高木 靖夫さん (高10)

防衛功労

☆瑞宝単光章

勝又 藤男さん (定昼2)

社会福祉功労

☆黄綬褒章

飯田 昭八さん (併2)

業務精励

終身会費納入者

※平成二十二年九月二十三日から二十三年三月二十八日受付まで

〔中十六回〕

石井 大三

〔高一回〕

佐藤 英樹

〔高四回〕

熱田 稔

〔高七回〕

米田 実

〔定夜一回〕

平山 鐵博

石井忠四郎

〔高八回〕

加瀬 勝平

澁谷 弘美

増田 久蔵

宮負 雅光

〔高九回〕

金沢 えい

〔高十回〕

加瀬 和夫

中村 螢子

〔定昼六回〕

〔高十一回〕 高橋 幸雄

〔高二十八回〕 木内 英司

〔高十三回〕 荒張 文字

〔高三十三回〕 大木 敏夫

〔高十五回〕 萩原 英俊

〔高十七回〕 伊藤 正規

渡辺トク子

郡司 長彦

須郷 隆雄

〔高十八回〕 高木 俊夫

高品 哲彦

林 秀樹

〔高十九回〕 朝比奈 了

安藤 和男

並木 俊雄

西村 正志

〔定夜十三回〕 野沢 信幸

〔高二十回〕 石田 正

加瀬美代子

塚本 晴夫

中村 信二

林 吉久

〔高二十五回〕 佐久間邦彦

〔高二十六回〕 大木 和恵

〔高二十八回〕 秋葉 忠夫

〔高三十二回〕 室谷 圭洋

〔高三十三回〕 土屋 肇

〔高三十五回〕 飯倉 康弘

長谷川幹雄

渡邊 奨

〔高四十四回〕 布施 淳子

〔高四十二回〕 常世田正猪

〔高四十三回〕 三友(伊藤)

久美

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹

〔高八十八回〕 佐藤 和樹

〔高八十九回〕 佐藤 和樹

年会費納入者

※平成二十二年九月二十三日から二十三年三月二十八日受付まで  
※名前の下の数字は納入していた  
だいた年数を示します。

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹

〔高八十八回〕 佐藤 和樹

〔高八十九回〕 佐藤 和樹

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹

〔高八十八回〕 佐藤 和樹

〔高八十九回〕 佐藤 和樹

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹

〔高八十八回〕 佐藤 和樹

〔高八十九回〕 佐藤 和樹

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹

〔高八十八回〕 佐藤 和樹

〔高八十九回〕 佐藤 和樹

〔高五十六回〕 平野 和也

〔高五十七回〕 國本 麗雅

〔高五十八回〕 石井 成史

〔高五十九回〕 金杉 幹夫

〔高六十回〕 佐藤 和樹

〔高六十一回〕 佐藤 和樹

〔高六十二回〕 佐藤 和樹

〔高六十三回〕 佐藤 和樹

〔高六十四回〕 佐藤 和樹

〔高六十五回〕 佐藤 和樹

〔高六十六回〕 佐藤 和樹

〔高六十七回〕 佐藤 和樹

〔高六十八回〕 佐藤 和樹

〔高六十九回〕 佐藤 和樹

〔高七十回〕 佐藤 和樹

〔高七十一回〕 佐藤 和樹

〔高七十二回〕 佐藤 和樹

〔高七十三回〕 佐藤 和樹

〔高七十四回〕 佐藤 和樹

〔高七十五回〕 佐藤 和樹

〔高七十六回〕 佐藤 和樹

〔高七十七回〕 佐藤 和樹

〔高七十八回〕 佐藤 和樹

〔高七十九回〕 佐藤 和樹

〔高八十回〕 佐藤 和樹

〔高八十一回〕 佐藤 和樹

〔高八十二回〕 佐藤 和樹

〔高八十三回〕 佐藤 和樹

〔高八十四回〕 佐藤 和樹

〔高八十五回〕 佐藤 和樹

〔高八十六回〕 佐藤 和樹

〔高八十七回〕 佐藤 和樹